

車内障害で交通事故を防ぐための視野検査

視野検査 健診で導入試みも

国内の失明原因で最も多い緑内障。視野に異常が出始めても自覚のない人も多い。視野の異常に気付かなければ車を運転するごとに事故につながりかねず、専門家は注意を呼びかける。早期発見のため、健康診断で視野検査を導入する動きも出てきている。

見え方の自覚が大切

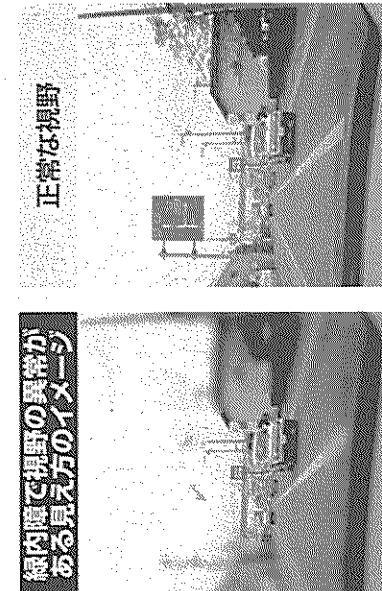
たじみ岩瀬眼科(岐阜県)合、事故は起こさなかつ多治見市の岩瀬愛子院長た。視線をあちこちに移動は2013~14年、警察序させながら運転、見えにくから委託で緑内障の患者約10人と視野が正常な約20人を対象に、自動車の運転シミュレーターを使つた運転実験をした。

60代の男性患者の場合、左右からの車の飛び出しに反応できず、何度も「事故」を起こした。急に車が出てきた。全然気がつかなかつたという。緑内障の症状が進み、視野が欠けていける度合いが高かつた。同じように緑内障で視野の欠けた70代の男性の場

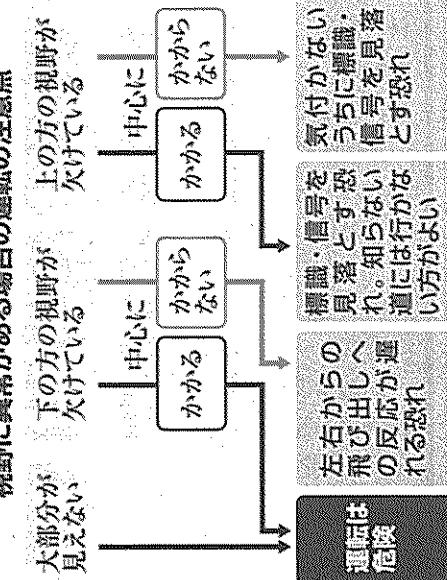
所では徐行した。「左から来る車が見えにくく」との自覚があるといふ。

0・7以上でかつ、片目で0・3以上あれば視野異常の検査はなく、普通運転免許は失効しない。岩瀬さんは「視野異常があつても自覚しているか、いないかは大きい」と指摘する。

東北大病院の国松志保講



視野に異常がある場合の運転の注意点



東北大病院の国松志保講師による。写真は国松さん提供

緑内障の治療

治療では主として症状の進行を抑えるために眼圧を下げる。大きく分けて薬物、手術、レーザー療法や、眼圧を下げる目薬、手術、レーザー治療の三つがあり、緑内障の種類によって使い分けられる。通常は、重症度によつて使い始め、効果がないと1種類の目薬から始まり組み合っていく。

緑内障では主として症状の進行を抑えるために眼圧を下げる。大きくて、眼圧を下げる目薬、手術、レーザー治療の三つがあり、緑内障の種類によって使い分けられる。通常は、重症度によつて使い始め、効果がないと1種類の目薬から始まり組み合っていく。

合意

師(眼科)による運転シミュレーターを使った実験で、視野が正常な人に比べて、緑内障患者の方が欠けていれば左右の飛び出しを見落しやすく、着の方が事故が3倍多いといいう結果が出た。事故の場面と見考え方を分析すると、視野の欠損部分から車が入ってくる時に事故が起きやすいことが確認された。

国松さんは独自に視野の欠け方と運転時の注意事項をまとめた(表)。視野異常を受診しなくなるのが一番怖い。気をつけなければいけない場面を知ることで、防げる事故があるのでないか」と語る。

視野計使い早期発見

緑内障は自分では視野異常に気づきにくい。岩瀬さんは多治見市内で実施した調査では、40歳以上の

20人に1人が緑内障と診断され、そのうち9割は無自覚で治療していなかった。

緑内障の診断では、視神経の状態を見る「眼底検査」と視野計で視野を調べることが重要だ。視野計の

検査は専門の眼科で受けることができる、自分自身の視野異常を把握できる。健康診断では視力や眼圧、眼底の検査が主で、視野検査はほとんどされない。そこで、精度の高い簡易視野計を使って視野異常を調べる試みがある。視野計を使った測定が30分程度かかるのに対して、簡易型だと数程度で済む。

東京慈恵医大の中野准教授(眼科)らが、簡易視野計を健康診断の項目に加えてみたところ、約1万5千人の受診者のうち、これまでの健康診断では見つかっていないなかつた緑内障患者が167人いたという。

一部の病院が健康診断にこの機械を導入。次元画像解析で眼底を定量的に評価できる小型機器も出てきた。健康診断への導入や普及が期待されている。一方、異常を指摘されて受診する人の割合が低すぎれば、ある程度進行した重要なことを広く知つてもらいたい」と語る。中野さんは「簡易視野計を導入すれば、ある程